

平成30年度 授業改善推進プラン 学年メモ

4年

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
国語	<p>○「書くこと」では、いつ、どこで、誰と、何をしたという程度の文章を書くことはできるが、一つの事実を膨らませて表現することが苦手である。</p> <p>○グループによる話し合い活動では、テーマについて全員が意見を言うのが難しい。語彙力が少なく、スキルが身につけていないことが多い。</p>	<p>○個人差が大きい活動になるため、個別の学習時間を確保することが課題である。</p> <p>○自分の意見をまずもつ時間をしっかりと確保することが課題である。また、少人数で話し合う経験を増やしていく指導が不十分である。</p>	<p>○文章を書く機会を多く設ける。(視写・作文・日記)短文メモから長文へ、作文メモから作文に書かせるなどの指導を行う。</p> <p>○話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをしっかりと持って、話し合いに進んで参加できるように指導を徹底する。</p>	<p>○文章の題名や書き出しの工夫、会話文やその様子を入れる書き方を指導する。例文などのモデルを多く提示する。</p> <p>○日常的に音読やスピーチ活動などに取り組み経験を増やす。漢字指導の中で熟語を使った短文を作り、語彙力を増やす。</p>	<p>○構成や表現の仕方を工夫した分かりやすい文章を書くことができる。</p> <p>○伝え合うことの楽しさや必要性を感じ取る。自分の考えとその理由・根拠などをはっきりとさせた論理的な話し方を身に付けさせる。</p>	
社会	<p>○地域社会の安全や衛生を守る諸機関の機能について実生活と関連させながら理解する点が不十分である。</p> <p>○調べたことを整理し、分かりやすく表現できない児童がいる。</p>	<p>○教科書をなぞるだけの学習にならないよう、自分の生活と結び付けて考えられるような発問を組み立てていくことが課題である。</p> <p>○記事内容同士の関連や図表を活用した記事作成についての指導を行い、情報の取捨選択をした上でレイアウトを構成させて、表現に工夫をもたせる指導が不十分である。</p>	<p>○「安全な暮らしを守る」「ゴミのゆくえ」「水はどこから」などの単元では、できる限り体験学習、見学学習を重視し、知識理解と実生活を結びつける授業になるように努める。</p> <p>○「玉川上水と玉川兄弟」では、現在の生活と当時の時代背景や生活の写真・図を比較し、分析的に考える授業になるよう努める。</p>	<p>○見学学習の後には、しおりやパンフレットを活用し整理させる。自分自身の市民としての関わりや役割を考え、まとめさせる。○自分なりに気付いた事柄と歴史の中に見られる変化を比較し、関心のある事柄について理解を深めさせる。○図表を活用する際、目的をもって読むことで推測させたり分析させたりする活動を取り入れる。</p>	<p>○全員の児童が、自分で調べたい課題をもって調べ、まとめることができる。</p> <p>○学習を通して、地域の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考慮することができる。</p> <p>○全児童が学習事項をまとめる新聞を作成し、目的に応じて情報を取り上げ、図表を活用した記事を書くことができる。</p>	
算数	<p>○一つの問題から複数の考え方を出すことのできる児童が少ない。</p> <p>○学習内容の定着において、個人差が大きい。</p>	<p>○児童の考えをもとに学習を展開していけるよう、課題提示や発問を工夫する指導が必要である。</p> <p>○繰り返し反復練習する時間を確保する必要がある。</p>	<p>○自分の考えや友達のことを書き留め、一つの問題について多様な考え方ができるようにする。</p> <p>○算数少人数担当教員との連携を大切に、個に応じた指導を充実させる。学習後、ノートの点検等を行い、一人一人の理解度をチェックして、次の学習に生かす。スモールステップを取り入れたプリントなどを活用する。</p>	<p>○話し合い活動を充実させ、思考が高まるように授業を組み立てる。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすくする。</p>	<p>○一つの問題に対して、既習学習と結び付けて、いろいろな考え方で、問題を解こうとする。</p> <p>○学習内容の基本的なところは、全員がしっかりと理解して定着できるようにする。</p>	
理科	<p>○実験の結果と結果から考察したことを関係付けて考える思考力が育っていない。</p>	<p>○既習事項を想起させたり、生活の中での事象も思い出させたりして、関連付けて考えることができるようにする指導が不十分である。</p>	<p>○観察や実験の際には、準備・方法・仮説(予想)・結果・考察・まとめなど、考える過程が分かるようなノート指導を継続的に行う。</p> <p>○実験の結果から得られる考察を文章化する活動を重視する。</p>	<p>○観察や実験の技能、内容の理解につまずきのある児童には個別指導を行う。</p> <p>○疑問に思ったことをもとに仮説を立て、実験方法を考え、実験結果を基に考察をする学習展開を重視する。</p> <p>○ICTを活用し、事象提示の工夫をする。</p>	<p>○児童が、自分なりの仮説に基づいて実験・観察を行い、その結果を一般化した考察として書けるようにする。</p>	
体育	<p>○めあてをもって取り組むことはできるが、技能を高め、工夫して運動しようとする姿勢が不十分である。</p>	<p>○技能を高めるためのポイントの指導が不十分である。その際、視覚的にもわかりやすいように掲示物を有効に活用することが課題である。</p>	<p>○学習カードを用い、個人やチームの課題やめあてを設定させる。</p> <p>○一人一人の実態に合わせて、適切に取り組むことのできる課題を選択させる。</p> <p>○動きのポイントに合わせた場を用意し、自己で練習の場を選択できるようにする。</p>	<p>○視聴覚資料などの学習環境を整備する。(DVD,ビデオカメラ・作戦ボード・ホワイトボード)</p>	<p>○児童が、それぞれのめあてに向かって技能を高めながら、楽しく運動できる。</p>	